# つまり、どういう事だ？

坂尾 のぼる

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

## 注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
つまり、どういう事だ？

【Ｎコード】
Ｎ４８８０Ｊ

【作者名】
坂尾　のぼる

【あらすじ】
ある日の涼宮ハルヒは少し違っていた。

## （前書き）

毎年の時期になると……ね。微笑ましいです。

２月は時期的に寒い時期にあたる。
それなのに暦の上では立春とかいってもう春になっていたりするわけだが、
この頃になると確かに体感的にではないものの、雰囲気的にそう感じられることもある。
いつものように寒い日ではあったがこの日だけは少しだけ違った。

２月１４日　聖バレンタインデー

クリスマスもそうだがかなり盛り上がるらしい。
そしてこういう物に飛びつく輩も沢山いる。
沸き立つ女子に諦観を決めて軽くホームルームを終わらせて退場する担任。今は放課後だ。

「よっ、キョン」

アメーバのように現れたのは、飛びつくもの筆頭の谷口は文化祭ではナンパをかけた奴だ。

「今日ほど男に生まれてよかったと思う日はねぇだろ」

そういえば長門が高次の意識文明を確立したのは地球の人類が初めてだといってたが、
こいつを見る限りではとてもその一員とは思えん。
かくいう俺も期末テストや学年末テストで散々な結果に終わり、ハルヒにＳＯＳ団の恥さらしと
罵られて同団長の個人的補習を受ける羽目になった。おかげで追試

は楽勝だったが。

「毎年一個ももらえないで『ばかやろう』とか叫んで走り去るのにか？」

「お前はいいよな。長門を押し倒すくらいだから1つは確実だろ」

「おまえなぁ」

俺に直ぐ後ろに席があるハルヒは放課後になるなり何もいわず教室を出て行ったためここにはいない。

やれやれだ。だいいち、長門はバレンタインデーなどは知らないと思う。

「おっと、こうしちゃいられねぇ。時は金なり、光陰矢のごとしだ。それじゃな」

チョコが俺を待っている！とか叫んで歩くな。今まで話していた俺が恥ずかしいっての。

でも、クリスマスの時にデートコースの話をしてたよな。そしてその翌日にハルヒが消えたんだ。

さて、俺もそろそろ部室に行くか。

なんといっても朝比奈さんのお茶を飲める。そういう日常を愛する人間なのだよ。

文芸部室（ＳＯＳ団が占拠中）は文化部棟にあり、今の校舎が新館で向こうは旧館ということになる。昇降口はこの2つの校舎の中央にあるのだ。

向かう途中の昇降口で俺は見慣れないものを見た。

・・・あれはハルヒか？

じっと1年9組の下駄箱を見ているようだが、なにやってんだろうな。あいつは。

いつもの校内探索にしては少し様子が変だがなにやってるんだ？

「きゃ！」

俺がいることなど考えもしなかったのだろう。
ハルヒは手に持っていたものを盛大に落としたのだった。
さらによろめいて落としたものを踏んでしまう。

パキッ

軽い音がした。ハルヒがさっと拾い上げたのは綺麗に包装された箱型の何か。

放心して少し考える。現状はどうなっている？
・今日は2月14日
・1年9組の下駄箱の前
・中身が割れたらしい音がした包装された箱型の何か

「まさかお前・・・」
「あああ！割れちゃったじゃないの！せっかく用意したのに！もういいわよ、こっちに来なさい」
まだ立ち直れないでいる俺を引きずって昇降口のロビーまで移動する。
その時は俺はどんな顔をしていただろうか。鏡なんて持っていないし近くにガラスもない。
だがハルヒの次に一言でそんな心配は吹き飛んだ。

「キョン。これが割れたのはあんたのせいなんだからね。あんたが責任を持って処分するのよ。処分といっても捨てたり人にあげたりするのは厳禁！」

顔を伏せつつも上目使いでにらみながら声を発し、そうやって箱を俺に突きつけてくる。
まったく。本当は誰のものだったのか聞きたいもんだね。

「だれだっていいでしょ、そんなの」
「はぁ。そうかい」
「そうよ、ありがたく受け取っておきなさい。そして来月には１０倍にして返すのよ」

１０倍か。安物でもリングくらい買わないといけないな。
北高は服飾にアクセサリは許可されていたか？
なんて考えながら俺はハルヒを見てうなづいてやった。

Ｆｉｎ

**（後書き）**

状況証拠からでは真実を掴みきれないお話でした。

近年では「逆チョコ」や「友チョコ」というのもあるみたいですね。

## ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n4880j/

つまり、どういう事だ？

2010年10月20日12時12分発行